

架け橋のような TC を目指して

石橋　望愛

目次

１．　はじめに
２．　TC スクールを受講して今後の私になにが出来るか、理想の TC 像とは
３．　日本の歯科医療における TC の役割
４．　おわりに

【はじめに】

歯科助手という仕事に就いてもうすぐ三年が経とうとしている。そんな私に院長が TC セミナーの受講を勧めてくれたのがきっかけだ。

自分の健康意識は低かった。中学校三年生のとき、虫歯になり近所のおじいちゃん先生がいる歯医者で説明も受けずに四本銀歯を入れた。昔から歯科は困ったときにしか行かない、それが当たり前だった。その考えが変わったのは実際に働いてからだった。歯科のことについて知識を増やすと同時に、今までの自分の考えが間違っていたことを知った。そして自分自身の口腔内について興味を持った。銀歯を CR に変えて、矯正も始めた。昔の私には考えられない進歩だ。

しかし、歯科に来院する患者さんの多くは、以前の私と同じように痛くないから治っているという認識を持っていると感じる。患者さんと話していくと、自分の現状が悪いことはわかっているが「とりあえず今回は痛いところだけでいい」「まだ困っていないから治療はしたくない」という声を聞くことが多くある。この先必ず痛い思いをする患者さんへ「わかりました」の一言で終わらせていいのだろうか。私の説明不足なのか。もしこの患者さんが私の大切な娘だったら。

【TC スクールを受講して今後の私になにが出来るか、理想の TC 像とは】

私は医院でのカウンセリングシステムの確立が必要だと考える。そしてなにより、私がカウンセリングをした患者さんには後悔をしてほしくない。一生歯に困ることがなく、快適に生活してほしい。

そのためにはドクターと TC だけではなく、医院全体でカウンセリングの体制を整えていくことが必要だと感じる。当院では毎朝歯科技工士とドクターの打ち合わせがある。そこへ TC も参加して現場の声を共有していく。他のスタッフとの連携をとるために欠かせない存在になれると確信している。

しかし、TC マスターカレッジを受講する前の私はカウンセリング＝自費契約だと思っていた。契約をとるためにインプラントの説明をして、するかしないかは患者さんに委ねる。だがこれはカウンセリングではない。それに気付いたのは第二日目の最後のこの言葉がきっかけだ。

「私達 TC の仕事は患者さまの心に医療情報という種を植え、その育て方を伝授するのみにとどまらなければならない。「理想治療」の開始は決して今でなくてもよいのです。」

私は目の前の契約に必死になって、患者さんの背景に目を向けていなかったのだと認識した。

私は翌日から、インプラントカウンセリングのやり方を教わった通りに行った。人生の分岐点、歯を失う三つのリスク、ロススパイラル、マイケルを患者さんの口腔内と同じ状態にしてカウンセリングを行った。しかし患者さんには妻と相談するから一度考えたいと言われた。患者さんを思う気持ちが伝わらなかった、足りなかったのだろうと一瞬にして落ち込んだ。患者さんは続けて「いままで息子のことを最優先で考えてきたんだよね。お金も息子にばかり使って自分は後回しだったんだけど、あなたの話を聞いて自分の体のことをしっかり考えようと思ったよ。ありがとう。」と声をかけていただいた。契約が取れた時よりも嬉しかった。この先どんな治療の選択をしても、患者さんが自分自身と向き合う小さなきっかけになれたということが私の大きな自信に繋がった。

私達 TC は患者さんの一番身近なサポーターだからこそ、患者さんのことをよく理解しなければならない。心を透明にした会話、自分の思う正しさよりも患者さんを受容する大切さ。医院と患者さんを繋ぐ架け橋のような TC を目指していきたい。

【日本の歯科医療における TC の役割】

日本の歯科医療は海外と比べて予防に対する意識が低いと思う。一本くらい歯がなくなっても平気という考えが定着していると感じる。その理由は保険制度だと考える。国が定めた治療方法なので体に良い治療だと思ってしまうのだろう。私も歯科助手になるまでそう思っていた。実際にカウンセリングを行っていくと、見た目を気にする人だけが自費治療を選択するのだと思っている患者さんは多い。

そんな患者さんに自身の現状を把握していただいたうえで、正しい医療情報の提供と幅広い選択肢を与え、後悔のない治療を受けてもらえることが予防への意識を高められると考える。

また、今後 TC という職業はどの職種でも必要不可欠な存在になるだろう。

【おわりに】

私が今目指している場所へ向かう道のりは、決して簡単なものではない。環境や状況によって諦めざるを得なかった人もいるだろう。私ももしかしたら、その一人になってしまうのかもしれない。しかし私は挫けそうになるたびに第一日目に学んだ、過去と他人と感情は変えられない。変えられるのは自分と未来と行動。この言葉を思い出して踏ん張っていこうと思う。

以上 1875 文字